

ごみやりサイクルに関する話題をお届けします。

▶問合せ 産業課産業振興係 ☎24-5111 (内線152)

## スプレー缶・カセットボンベは 必ず中身を使いきりましょう

### 火災の原因になります

中身の残ったスプレー缶やカセットボンベなどがごみに出された場合、ごみ収集車両やごみ処理施設で火災の発生原因になります。ガス缶を出す時は、必ず中身を使い切ってから出してください。

### スプレー缶の出し方

1. 缶を振って中身の有無を確認してください。

2. 「シヤカシヤカ」と音がしたら、まだ中身が残っています。必ず使い切りましょう。

3. 音がしなくても、まだ中身やガスが残っている場合があります。「ガス抜きキャップ」を活用し出し切ってください。※火気のない風通しの良い屋外で行ってください

※ガス抜きが付属していない場合は完全に出し切ってください。

4. 中身を出し切った缶は「有害ごみの日」に各ステーションに置かれている「コンテナ」へ出してください。※缶に穴は開けずに出してください。

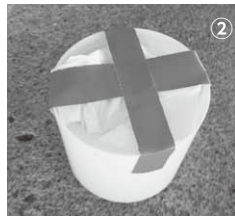
### ガスの抜き方

①スプレーボタンを容器から取り外します。

②キャップの中にティッシュを詰め、上からテープで固定してください。

③缶を立て、キャップを押し込み、残った中身とガスを抜きます。

④ガスの噴射音が消えてから2時間〜3時間放置した後、有害ごみの日に出してください。



## 地域おこし協力隊通信

▶問合せ 企画課地域振興係 ☎24-5111 (内線141)



### 新たな一歩

こんにちは。地域おこし協力隊の綿貫です。昭和村にもデマンドバスが走り始めました！

運行に先立って、デマンドバス用のバス停を村内60カ所に設置する作業をしました。バス停は重く、重労働でしたがいい筋トレになりました！



昭和村地域おこし協力隊 綿貫 秀人 隊員

道の駅「あぐりーむ昭和」旬菜館で活動中！



また、設置にあたって村内各所を巡りましたが、まだ知らない昭和村を見つめることができ、改めて昭和村の魅力を知るいい機会になりました。

道の駅あぐりーむ昭和にもバス停が設置されています。これからの季節『やさしい王国昭和村』の新鮮な野菜が数多く並びます。是非、デマンドバスを利用してお越しください！

婦人会の解散を耳にして

過日、村の社会教育関係団体である婦人会が解散し、百二十二年の歴史に幕が下ろされたことを知った。婦人会といえば「村民運動会」で赤白のウェアを着て、総出で「昭和音頭」を踊った姿が懐かしく思い出される(写真)。婦人会や若妻会、青年団といった団体に関係する方々と仕事を通して世話になった者として、なんともいえない寂しさを感じている。

かつて昭和村役場の職員だった私は、昭和四十五年六月一日に教育委員会事務局に異動した。当時、二十四歳だった。担当していた社会教育の中心的な業務といえば、婦人会や青年団の活動であり、積極的に行われていた。若妻会はまだ存在していなかった。

青年団においては、あるとき、その活動の一環として「歌う会」なる行事が小学校の講堂で行われた。当時の歌とは、私たちの故郷や美しき山、川、そして友などを歌った「唱歌」だった。こうした場や、時には仲間とお茶を飲んで



村民運動会で踊る婦人会(平成8年)

だり山登りに行ったりと活動を増やしていき、活発になっていったようである。

その頃、人生の方向性が見え始めてきた私は、地元の椽久保にも、もう一度、青年団を作ろうと思いついた。若かった我々にとつて今一番関心があることは何だろうかと考えたとき、それは、異性や結婚といったことに思い至った。そういう発想を起点に活動を始めた。

まずは、先輩方に指導いただき「社交ダンス講習会」を開催したが、若かった私たちは気恥ずかしさが先立ってなかなか踊れなかった。

そんなある日、仕事で追分にある赤城北麓の開拓事務所に行った際、待ち時間に事務員の女性と世間話をするうちに、その地域にも青年団があることがわかり意気投合した。これが縁となって話がまとまり、彼女の地元青年団と椽久保の青年団との交流会が椽久保公会堂で実現した。若かりし頃の良き思い出である。

昭和村ボランティアガイドの会

事務局長 島田 民夫



地域包括支援センターだより

地域にとって大切な場所、サロンの活性化を目指して！

～第5回きずなサポーター会議(2月24日)の報告～

今回の会議では、医療法人大誠会内田病院グループ介護統括部統括介護部長の黒木勝紀先生を講師にお迎えし、「認知症に備えるーこんな事で認知機能維持は今すぐできるー」をテーマにご講演をいただきました。きずなサポーター30名が出席し、認知症の基礎知識、認

知機能維持の方法やポイントなどを楽しく学びました。参加された方からは「黒木先生のお話が楽しかった」「さっそく生活の中に取り入れたい」「認知症をポジティブに捉えることの大切さを知った」などの声が聞かれました。



▲後出しじゃんけんで脳を活性化



▲黒木先生のお話へ耳を傾ける参加者たち



問合せ 地域包括支援センター ☎20-1126

